

海苔養殖経済効果比較試験

担当者 技師 永山 松 男
九万田 一 己
小松 光 雄

出水市福ノ江地先において海苔養殖の各種資材別の経済的比較をし、水平築転向への一指標とする目的で試験を実施した。

試験には網築(棕櫚網)、浮築、全浮動築(富士川式)、女竹の4資材を選び、管理の都合上、施設は小型のものとした。即ち、網築は業者使用のもの7~12間であるが、本試験では5間とし、浮築は3間、全浮動築は2間とした。

1. 資材代比較

資材中、杭(木)、網築、吊繩は2ヶ年使用に耐えるもので、比較にはそれらの資材代金の $\frac{1}{2}$ を、一漁期所要経費として計上した。他はすべて1年償却。資材によって規格が異つているためそのまま比較することはできないが一応各資材を施設するに必要な坪数を求め、1坪当りの資材代を比較してみる。

尚、女竹は1坪々本建込みが普通であるので、それに基づいて計算する。

資材代最高は全浮動築で1坪当り19/円、次いで浮築、網築がそれぞれ95円、85円となり、女竹は担架代だけで坪当り8円となり他の資材に比べ非常に少い経費で充分である。養殖期、風波の甚しい当地先では全浮動築、浮築に破損され易いため修理代等の施設費が嵩むことがありうる。

2. 資材別養殖管理の難易

海苔養殖において特に水平築では管理操作の重要な事は論を俟たないが、養殖資材によって管理操作に難易がみられる。尤も女竹築は操作の施しようがなく建て込んだまゝの状態ですべてに管理することはないが、人惑的に海苔の生育を計るとか、海況等の異変に対して操作することができないような欠点があつて問題とすべきでない。

建込み、移殖、大潮、小潮による築の操作及び風波による破損修理など養殖期間中の管理操作全般について考慮するに、網築が最もたやすく、浮築、全浮動の順で難しく、一たび破損されると修理も思うようにできないような状態で管理には一人では不充分である。これに対し、網築は一人で充分操作でき然も風波による破損も他の資材に比べ少ない。

3. 資材別海苔収量の比較

水平築は三資材とも殆んど同水位に張込み、ワサレ病発生の際は、それぞれ適宜に張り込み水位を上げたりした。尚、全浮動築の初摘採は1月29日で他のものに比べ遅くなつてはいるが、これは有明水試との共同試験で、海苔6寸に伸長してから摘採する事に決めてあつたため、実際には1月上旬から摘採可能な状態であつたから海苔収量は

や、上回りで考えてよいと思う。

坪当り海苔収穫についてみると、最高は網築で約70枚、次いで全浮動築約37枚（/月上旬より摘採したとすれば約50枚程度）、浮築約30枚と並び、女竹は全然収量なし。例年ならば/本平均5~6枚の生産があるので30年度も例年通りであったと仮定して計算すれば坪当り約70枚となる。

各資材中、海苔品質は例年、女竹海苔が最優秀であるが、今年度は浮築海苔が最も秀れており、網築、全浮動築の順であった。

4. 収益の比較

比較上、各資材の海苔をすべて/枚5円として収入 - 経費を計算すると/坪当り、網築265円の利益、浮築55円、全浮動築-66円（/期早く摘採してあれば54円の利益）、女竹は-8円（例年ならば平均約90円の利益）となっている。

以上、経済的には網築が最も秀れており、次いで浮築、全浮動築、女竹の順となっていて水平築時に網築の有利なことが窺える。

資材別比較表

	網 築	浮 築	全 浮 動 築	女 竹
規 格	5間×4尺	3間×8尺	2間×8尺	5尺
施設所要坪数	6坪	6坪	3坪	0.25坪
所 要 経 費	※杭 8尺10本 175 ※網築 200 ※吊縄 (サザルロープ) 130 浮竹 6	※杭 8尺8本 200 築代 220 ※吊縄 104 針金 30 浮竹 14	竹杭 6本 140 築代 250 ※吊縄 65 針金 60 浮竹 10 薬縄 50	粗菜 1本 2
一漁期資材代	511円	568円	575円	2円
坪 平 均	約 85円	約 95円	約 191円	8円
達 込 月 日	10月14日	10月18日	10月13日	10月18日
移 殖 月 日	11月7日	11月8日	11月12日	11月18日
達 込 方 式	浮 動 式	浮 動 式	全 浮 動 式	株 立 式
初 摘 採 日	12月13日	1月13日	1月29日	
海 苔 収 量	418枚	184枚		0
坪 平 均 収 量	約 70枚	約 30枚		0
枚5円として 坪 当 り 収 入	350円	150円		0
坪 当 り 差 引	+265円	+55円		-8円